

差別のない明るいまちに

📍人権センター(大路二)
☎563-1177、📠563-7070

情報(メディア・インターネット)と人権

情報発信メディアの影響
みなさんは情報を収集するとき、何を利用しますか？テレビ？インターネット？また、たくさんある情報の中から、信頼できる情報をどうやって選別していますか？

総務省が平成30年度に行った情報通信メディアの利用時間などに関する調査によると、「いち早く世の中の出来事や動きを知る」ために一番利用する情報通信メディアとして、インターネットが50・7%、テレビが45・3%となり、インターネットが初めてテレビを上回りました。現代社会では、情報通信メディアの持つ影響力はとも大きく、私たちはそれに左右されています。

身近になった情報発信の一方で
あふれる情報の中には、内容の一部が誇張されているものや、編集されて情報そのものが正確でないものもあります。

また近年では、個人がホームページやブログ、SNS※などを通して、日常生活の中で感じる個人の思いなどをリアルタイムに

投稿できます。その一方で、ネット上での発言や振る舞いは、多くの人の目に触れる可能性があり、真偽を確認することなく投稿したり、誤った情報を拡散して、意図せず世の中に大きな影響を与えることがあります。

情報を正しく見極めましょう
情報社会の中で、私たちに必要なことは、どの情報が正しいのか、正しくないのか見極める力「メディアリテラシー※」を持つことです。日ごろから物事を多面的に見て考える習慣を身に付けましょう。また、情報を受け取るのは「感情をもった人間」だということを忘れず、誤った情報などで誰かを傷つけてしまわないよう、正しい知識と認識を深め、差別や偏見のない情報を正しく発信することが大切です。

※SNS：ソーシャル・ネットワーク、キング・サービスの略で、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどからインターネットを使って、多くの人と交流できるサービスのこと

※メディアリテラシー：インターネットや新聞、テレビなどが発信する情報を見極める能力のこと

後期高齢者医療保険料 改定のお知らせ

4月1日から保険料率が変わります。今年度の保険料の額は、7月中旬に郵便でお知らせします。

区分	改定前(平成30・令和元年度)	改定後(令和2・3年度)
均等割額	43,727円	45,512円
所得割率	8.26%	8.70%
年間保険料の上限額	62万円	64万円

■令和2年度の均等割額が軽減される場合および変更点

世帯主と被保険者全員の所得が一定以下の人は、世帯の所得水準に合わせ、均等割額が軽減されます。65歳以上の人の公的年金などの所得については、15万円を引いた額で判定します。

●均等割額の軽減割合が見直されます

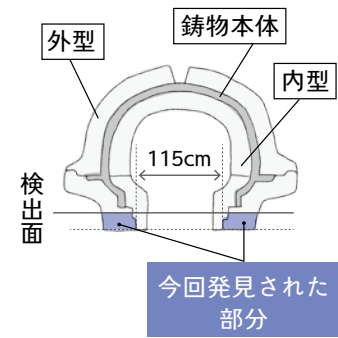
- ▶世帯主と被保険者全員の所得の合計が33万円以下で、被保険者全員の公的年金の控除額を80万円として計算したとき、各種所得が0円となる人
《昨年度》均等割額 8割軽減
《今年度》均等割額 7割軽減
- ▶世帯主と被保険者全員の所得の合計が33万円以下で、上記に該当しない人
《昨年度》均等割額8.5割軽減
《今年度》均等割額7.75割軽減

●均等割額5割・2割軽減の範囲が拡大されます

- ▶均等割額が5割軽減される人
被保険者とその世帯の世帯主の総所得金額などが次の計算式を超えない人
《昨年度》「基礎控除額(33万円)」+「28.0万円×世帯の被保険者数」
《今年度》「基礎控除額(33万円)」+「28.5万円×世帯の被保険者数」
- ▶均等割額が2割軽減される人
被保険者とその世帯の世帯主の総所得金額などが次の計算式を超えない人
《昨年度》「基礎控除額(33万円)」+「51万円×世帯の被保険者数」
《今年度》「基礎控除額(33万円)」+「52万円×世帯の被保険者数」

■保険料の試算 65～74歳で一定の障害がある人は、申請により後期高齢者医療制度に加入することができます。保険料は滋賀県後期高齢者医療広域連合のホームページ(<http://shigakouiki.jp>)で試算できます。

📍保険年金課(1階) ☎561-2358、📠561-2480



平成29・30年度に、発見された櫛差遺跡の遺構に続き、隣接する黒土遺跡からも数々の遺構が確認されました。飛鳥時代末から奈良時代初頭とみられる、金属製品を製造するための土坑が3基、製造後、溶解炉の壁片などを廃棄した土坑1基などが発見されました。その一つに、大型金属製品(鍋か釜)の鋳型の最下部と思われる遺構が見つかりました。作られた製品は、口径115cm以上の物と考え

られ、国内最古の鍋釜の生産として知られている奈良県明日香村の川原寺の北辺で発見された羽釜の製品よりも大きな物であったと考えられます。瀬田丘陵周辺は、667年の近江大津宮遷都前後から奈良時代にかけて、国内有数の製鉄・製陶の生産地帯でした。今回の発見で、櫛差遺跡に続き、黒土遺跡も鋳物生産の重要な拠点であったことが分かります。

この遺跡からは、鋳造に関わる多くの溝や土坑が検出されており、鋳込み土坑では、直径約1・4mの輪状の赤褐色に焼けた土の塊が発見され、鋳造に使われた鋳型の最下部とすると、かなり大型の鋳鉄製の鍋や羽釜を製作した可能性があります。明日香村の川原寺北辺に位置する鋳造工房の遺跡では、黒土遺跡の鋳造工房とほぼ同時期に、大型の鋳鉄製羽釜が鋳造されていたことが分かっています。大型鋳物の鋳造という当時の高度な技術が、中央政権の中枢地域の他に、近江国衙のような地域の政治的拠点に程近い所でも駆使され、鋳物製品が作られていたことが判明したことは重要な発見です。

また、この周辺ではいくつかの鋳造工房が存在したことも推定できることから、古代の日本では青銅鋳物や鋳鉄鋳物の生産が、この時期に大きな発展期を迎えたとみられ、近江地域では、その影響をいち早く受けて金属生産を展開したと考えられます。

黒土遺跡の鋳造関連資料発見の意義
専門分野(考古学)
五十川伸矢 元京都橘大学教授
草津市文化財保護審議会会長
鋳造遺跡研究会会長

成果報告会などの実施について、詳細が決まり次第、市のホームページでお知らせします。

📍歴史文化財課(6階) ☎561-2429、📠561-2488

黒土遺跡から、国内最古級の鋳造関連遺構群